

わがマチのいち推し

第7回

縁起良し!“よもぎ大福”

私の地元・新ひだか町には、とてもおいしく縁起の良い“スイーツ”があります。昭和6年創業の菓子店「きのした」の“よもぎ大福”。父がよく買ってきてくれて、私も若い頃からのファンです。地元で採れたよもぎの香りとすっきりした甘さが素朴でありつつ何とも美味で、長らく地元で愛されてい



ます。私は選挙の事務所開きの際に鏡餅代わりにお供えし、初当選時から負け知らず。縁起の良さも抜群です。個包装されていて1個



150円。日高方面にお越しの際はぜひ味わってみてください。



ふじさわすみお
藤沢澄雄 道議
(日高地域、6期)

札幌村郷土記念館

札幌の源流となる事績や人物、玉ねぎ栽培を中心とする農業の歩みを、所蔵する114点にもものぼる札幌市指定文化財などの豊富な資料を通して今を



わたなべやすじ
渡邊靖司 道議
(札幌市東区、2期)

生きる私たちに伝えてくれるのが札幌村郷土記念館です。大友堀の開削など札幌開拓の先駆者である大友亀太郎、日本に初めて玉ねぎ栽培を導入し、札幌村での栽培を指導したウィリアム・P・ブルックス博士らの業績や人物像、“幻の玉ねぎ”と呼ばれる「札幌黄」誕生と基幹産業への歩みなど、札幌の“ルーツ”を知ることができます。

1階に玉ねぎ栽培の農機具など、2階に歴史的な文書や人物の業績などを展示



記念館の前庭には「わが国玉ねぎ発祥の地」を示す碑(左)もある

編集後記

▽10月のIOC総会で2030年と34年の冬季五輪開催地を同時決定することが決まり札幌招致が絶望的となった。無念というよりほかない。東京大会を巡る汚職事件の影響で市民理解が得られなかったことが響いた。▽その4日前には札幌市とIOCが30年を断念し、34年以降の招致を目指すと発表したばかりで面目丸つぶれとなった。38年以降に目標は遠のいたが、仕切り直しをした上で誰にも文句を言わせないクリーンなオリパラを実現してもらうことを切に願う。

隔月刊・われら北海道
令和5年11月・第24号
令和5年10月25日発行
発行・編集／藤井利範
発行所／株式会社自由広報センター
〒060-0004札幌市中央区北4条西4丁目
ニュー札幌ビル8F
電話011(261)7090代表
印刷所／株式会社須田製版
(無断転載を禁じます)